（十三日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭[illegible]第一第三日曜
定價｛壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遊沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

贈答品を廢止せよ

鐵北　佐々木一石

◆年の瀬となつた吾々腰辨の一大恐慌、それは所謂「お使ひもの」である、日頃の御高恩に報ひんが爲めそして又サラリの何分かいくつかを費す「お使ひもの」である

◆御恩返しも御世話に[illegible]た御禮をする事は決して惡い事ではないがしぶ／＼澁き面をして迄もそれをなすべき義務があるだらうか、た使ひもの〻多少で今後榮達昇進に直接間接に影響ある今日吾々は煩悶せずはゐられない

◆お使ひものが年始狀一枚位ですむなら格別、夕マイ何兩併もそれが幾八なんだから仲々やりきれない、かゝる場合救助的に到來するボーナスも現ナマがまた手に入らぬうちにちやんと其使用方面が定つてゐるし、又棚ボタと思つてゐれば棒にしてなくなるボーナスなのだ

◆贈答品廢止の聲は[illegible]り耳にするが習慣なるもの[illegible]や昇給問題といふ奴に見事打まかされて未だ廢の[illegible]も實行されてゐない有樣のである

◆お互に遁り一ぺんのお使ひもの〻やりとりしてもの效がある〻のだ、やり取するのだから結局差引丈けて損德といふものはない[illegible]若しそれをやめてそれに[illegible]ふ金を他方に融通するなら少くとも借金取に下げる頭の數が少しへるし又[illegible]取迫ッ拂ひの口實を考へ事が少くなるではないか

◆心持のこもらぬ反つて恨みのこもつたかの如き形式的報恩の表思表示は早速廢止したらよい、[illegible]地位にある者は心掛け一つですぐ實行が出來る、贈答品廢止の

◆今迄優位の地位にある者は即ちおくり物を受ける側に[illegible]て欲しい。面倒をみたからおくり物を受けるは當然である等といふ御考へは捨てゝ

◆要するに無駄な事は早速廢して有益に無駄のない樣に／＼と事を運ぶのが文明人のたどるべき道ではなからうか。

磐新顧問

（照合を歡迎す）

（問）從兄との縁談がきまつたのです、從兄とは同年の廿一歲ですから、いそいでする事もありませんし叔父の方でも出來るだけおくらしたいと云ひますが、年頃の妹も居ることゆゑと父の意見なので、叔父も察して承知し、近々一緒になるやう話を進めて居るのですが斯うした事から私は産婆の學を考へついたのです將來の叔父の家の財政を見ても、安定して居ないのですから、萬一の場合この爲めにもその資格を得たいと思ひます、尤も昨今はある仕事に從事して居るのですから、産婆の學を學ぶにしても、時間は夜分しかないのです、相當な方法があるでせうか、私は一緒になるのを延ばす爲めにもかくしたいのです、父はあまり同意らしくないのです御意見を　（久代）

（答）あなたの年は既に齡、未だなられる方の爲めを思ひますまだ早いと思ひますし、家計も不安定、だとせば、産婆の資格をとつて置かるゝ事などはお爲めでせう、それにはその道の大家に師事する[illegible]よいが、なるべくなら養成所へはいりになつた方がお爲めですが、[illegible]間仕者ありとせば産婆界の先輩に御頼ひなさるより外ないでせう、但し今何をして居らるゝのです、その仕事は嫁して後も出來ぬのですか若出來る事なのであらばそれに依らるゝ方が結局お爲めと思ひますが、これは父上とも相談が必要であるが、叔父さんとも縮と相談せらるゝ方將來のお爲めと存じます

（問）高小を卒業後或店へ勤めて居る者ですが、英語の必要をつく／＼感じますので、四五年間もみつちり習ひたいのですが學校に通ふ譯には參りません講義錄では如何でせう　（T・M）

（答）夜學校へお通ひなさることは出來ませんか、外のことゞは違ひますから御主人もお許しになるでせうと思ふ、どうしても師について習はねば不充分です、どうしても出來ねば講義錄が一番よろしいでせう

明日の吉凶

舊暦十一月廿一日
新暦十二月十四日

△一白　外に出でゝ辛勞するより內に在るが利得の日△二黑　行違ひ爭ひの生じ易き日普請旅行何れも凶△三碧　辛抱甲斐の現れ來る日名ひろめ開店慶儀皆吉△四綠　諸事順調に進む但し外に在りては失せ物を注意△五黄　聲のみ大にして實形の見止めがたき日萬注意△六白　種を蒔き置けば他日萬倍の收穫となる△七赤　午前は吉なれども午後は凶に走り易し注意△八白　疑ひ深き時は好機を失することあり進取吉△九紫　吉にも凶にも岐る明き日常業を守るが安全

講談　血で血を洗ふ　(211)

高橋掬太郎創作
布施平八郎揮畫

鮒侍　泳ぐ

一人が眞向から打ち込んで來た奴を、[illegible]て体を代した穴澤熊之助、よろめいて行くのを後から襟首をむんづと引き掴み

「やつ！」

と一聲、投げつけたのは傍の泉水の中

「あつ！あつぷ……」

と水を呑んでもがく。

「はは……」

と、熊之助は高らかに笑つた。この隙を狙つて來た一人が横合から激しく打ち込んで來たがこれも忽ち泉水の中つついて打込む若侍はみな投げ込まれて濡鼠となつた。

「はゝ……これはとんだ失禮を仕つた、しかし汗流しに水を浴びたら定めしいゝ心地でござらう」

と人を馬鹿にしたやうに熊之助は又もや高聲で笑つた

「いや天晴れなる御腕前感心仕りました」

と重太夫は賞賛した

「なーに、こんなのは朝飯前で腹こなしにも足り申さぬ、他にまだ誰かござつたら相手にならう、何なら早間氏御貴殿でもようござるか……」

と熊之助は埃を拂つて座敷へ上つた

「いや、最早結構でござる拙者如き何んで及び申しませう、實に天晴の豪傑でございまする」

と重太夫は酒肴を取り出して歡待した。

「御主人、熊之助は此のやう偉さうに申しておるが拙者から見ると小供も同然でまだまだ遊び相手にしかならぬのでござる」

と木下虎之助が大きなことを云ふ。

「左樣でござりまするか、穴澤氏よりも強いとあればどのやうに強いか相判りませぬな」

と重太夫は慇いて感心するばかりであつた。

「如何でござる、これなら怪人が討てまするか……？」

「いや討てまするとも討てまするとも怪人が如何に勇ありとも、御貴殿方に向つては敵ふものではござらぬ」

重太夫は頻りに媚てるやうに云つた

「然らば夜に入るを待つて怪人退治に出掛けることに致さう」

「何分よろしくお願ひ申上げまする」

と重太夫は大きに喜んで怪人退治を此の奇怪な二人の豪傑に依頼した

木下虎之助と穴澤熊之助の兩人は、夜に入るのを待つて例の松並木へ出かけた

「此のあたりでであらう」

と虎之助が立ち止つた

「うむ、此の邊らしいが何んでもいゝ早く怪人が出て來るとよいがな」

熊之助は鐵棒を地響打たせながらあたりの松の梢を見廻した

「だが、本間家には案外意久地のない奴等ばかりではござらぬか、家老の早間重太夫もたつちよこちよいらしいし、鮒侍共が泉水の中であつぷ／＼をやつた恰好つたらないではないか」

「いかにも泉水を泳ぐ鮒侍か、はゝゝゝ面白いな」

「以前の城主本間成昌公は智勇兼備の名將と謳はれた人であるが當代の昌康公は暗君らしいな」

「さうだ、領民の間にも怨嗟の聲が高いやうぢや」

「怪人といふのも果して何人か、昌康公に怨みを抱く者らしいが大分面白いぞ」

「いかにも怪人が出て參つたら掴伏せて樣子を訊かふではないか善が惡か判らぬからのう」

「うむ我等はどちらでもよい、正義の味方だ、事に依つては怪人の仲間になつてもいゝぞ」

「さうだ、それも面白からうが、それにしても早く出て參るとよいが――」

二人はこんな話をしながら怪人の出てくるのを待つてゐたが、怪人の姿は容易に現れなかつた。

「はて如何致したのであらう吾々の勇氣に驚いて出て來ぬのであらうか」

熊之助は待ち飽きたやうに大きな欠伸をした。

ナフトール
着尺
着尺モスリン
模樣名仙
平
龜田屋
電五七

廣告

正確な体温器と
寒暖計は親切な
山野邊藥店
平町五丁目角

[illegible]
御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

片濱自動車運轉
平、高久、豐間、江名
停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一三三屋、江名山口屋
電話…二一七番
電話…一四二番
（御三人以上はお迎ひに參上致します）
平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木
片濱自動車商會

夜間診療
胃腸
十二指腸虫病
內科專門
內科部
梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部
平南町
松村病院
電話一〇七

眞理の賣出し
(2×9)＝(3×2×3)
肉は三二三眞理で御座る
其肉はよく
其値は安く
此上なしとは
是れ又眞理
夫れに尚えかけて
割引賣出し
肉は三二三
電話三二三

金牌一等賞受領（數回）
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

生花教授
池ノ坊流
生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋横町）
須藤まつの

平町
紺屋町
吉田眼科醫院

日々皆樣の御贔負に酬ゆる爲め左記の通り大々的勉強仕り候是非引續き御愛顧の程御願申上候
記
期 十二月末日マデ 間
梅　參圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御酒御料理三品）
松　五圓也（御一人前 藝妓、車賃往復 御料理五品）
櫻　七圓也（二人樣デモ差支アリマセン 藝妓、車賃往復 御料理七品）
〔以上現金ニ限ル〕
松ケ岡公園池ノ端
割烹　ときわ
電二二六番

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

懇切迅速勉強は
―弊店のモットーであります
磐城銀行御指定
平町材木町
ケーテー洋服店
高野幸一

ホシ美白粉
ホシ美水白粉
ホシ美煉白粉
ホシ美固煉白粉
ホシ美粉白粉
ホシ美クリーム
ホシ美ローズ香水
[illegible]株式會社

某中等學校の得点詐欺事件

試驗時に不良の學生が

學校當局も警戒

平町地方は暮れの迫るにつれ一日毎歳晩の忙しさが濃厚となつて來たが街ばかりではなく棚一重で實社會とは隔離された各學校にも侵入してゐる即ち學期の總勘定である學期試驗施行である、市内各中等學校も既報の如くそれ〳〵開始されて生徒は血眼になつて夜の目もねずに試驗準備に沒頭してゐる、繁忙期の年の暮れに社會は各種犯罪が增加する如く神聖なるべき學び舍にも學生として看過すべからざる不法行爲、即ちカンニングなるものが行はれる日頃不眞面目なる生徒が試驗に際し自己の實力以上に認められやうとする得點詐欺の卑劣極まる行爲である、手段も世の文化の新歩に連れて年々巧妙陋劣を極めてます〳〵意識的になり、試驗準備に沒頭するよりもカンニングの手段研究に腐心するが如き卑劣兒も生じてくる各學校當局に於ては試驗の監督に際しては孰れも慎重な注意を拂つて不法行爲の撲滅を期してゐる、中には脅迫的に善良な生徒から押收するが如き行爲をなす者もあり勉强家連は悔々としてノート保守につとめる等悲慘な狀況を呈する、右について某中等學校長にたゞせば「いや是は全く困まる問題でカンニングが實際あると云へば我れ〳〵の立場がなくなるし專心これが掃蕩に努めてゐるんですがちよい〳〵臭い事實を認める事も餘儀なくされてゐます徹底的に取締るつもりでは居りますがさういふ事で將來を禍まらす様な事もしたくないと遂情にかられて處罰せず内々誡めてゐる様なこともあります、而し生徒が幾ら上手にやつても試驗監督はちやんとのみ込んでゐますから自分自身を陷入れる事になるんです」云々

平第一小學校で郷土讀本を編作

本縣でも珍らしい試み

一般から注視さる

平第一小學校では同校訓導の中野目、坂内、野木、鈴木、大和田、上川等の諸氏が委員となつて郷土讀本編纂に努める事となつた、要する一般兒童に對し郷土の情緒や郷土としての地理的概念、歴史的智識や興味を中心として半意識的に訓育し致導してゆかうといふ點から生れたもので、この種の試みは本郡は勿論本縣としても餘り類例がないので教育界や父兄間からも非常な期待をうけてゐる編纂の任に當つた前記各委員はいづれも同校に於ける眞面目な研究家ばかりであるから、定めし内容も實際的で充實したものであらうから愈々編纂されて實際教授に應用されるやうになつたなら、兒童教育上に及ぼす好影響は蓋し絶大なものであらうと云はれてゐる、今その内容[illegible]ましについて委員の說明を聞くに、該讀本は正課として取扱ひ、いづれも尋常四年以上六年までにこれを取入れ材料は地理が十課、歴史九課、公民六課の合計二十五課となし、主材や插畫の如きも鹽屋崎燈臺、新舞子、尼子橋、炭坑、松ヶ岡公園、子鍬倉神社、停車場、警察役場等を取ませ苦心の跡がありありと見えてゐる可成りに有意義なもので期待されてゐる

藝者つばめの戸籍爭ひ

吉野家藝者物語

平町字田町吉野家清野音吉方抱藝妓つばめ事加藤たけ（二九）は去る九月十八日同町料理屋末よしに呼ばれて行つた儘行衞不明となつたので吉野家では八方人を派して搜査してゐた處此程東京日本橋區蠣殼町三ノ十二待合喜せんより**吉野**家に宛てた手紙が舞込んだのでつばめの居た所が判明したが其手紙に依ればつばめは十八日夜末よしに行つて見ると御客は馴染の平町字土橋の酒商玉菊事鈴木武（三七）であつたが間もなく武は湯本町に遊びに行くとつばめをだましてつばめが懷中してゐた金三圓餘を捲上げ嫌がるつばめを無理に東京まで連れて行つた事が細かに記載されてあるので吉野家では人を賴んで**喜せん**方へ交渉した處喜せんの女將より妾はつばめの實姉にてつばめには叔父や伯母もあり大正十二年の大震災にてつばめの戶籍がわからなくなつたので最近裁判所に願つて戶籍を新に作たと云はれ吉野家から賴まれて行つた人も何だか狐に摘まゝれた様な感じを懷いて歸平し其旨吉野家に話したが吉野家に現存せる大正八年二月七日附東京市本所區長霜島幸次郎の作成に係る戶籍謄本に依ればつばめは**本名**をたけと呼び明治四十二年二月東京市深川區御船藏前四十九番地に生れ父は矢島金藏母は矢島津喜にて明治四十二年六月廿五日東京市本所區柳島梅森町二十一番地加賀久治の養女となり大正八年二月七日平町吉野家に來て藝妓となり今日に及んだものでつばめの養父久治は大正十一年春死亡したのだからつばめは法律上當然單獨女戶主となり久治の家督相續を爲し居る筋合にして今更新規に**戸籍**を作るべき必要なきは明瞭にて戸籍謄本に依ればつばめには叔父も伯母も姉妹もなく一戸の戶主であること明かにて今更新規に戶籍を設けたとすれば何者かが大正十二年九月一日の大震災の結果東京市に於ける戶籍原簿の燒失せるを奇貨にしてつばめをそそのかし此擧に出でたものではないかと云はれてゐる

豫想以上好かつた今年の稻收穫

乾燥も申分なく

平均の增收八分

農事試驗場に於ける本年度水稻收穫調査は此程終了したので發表したが夫れによると成育期中の大豐作豫想に反し前年に比すれば早稻五分七厘中稻七分九厘晩稻一割二分四厘にて平均八分七厘の增收を示してゐるが恰も前年の大正十五年は最近七ヶ年以降の大凶作年なれば

之に比し　八分七厘の增收を見たりとて良好なる收穫と言はれず既に平年作に比すれば早稻のみは五分九厘の增を見たるも中稻は一分八厘晩稻五分六厘減じて平均九厘の減收を示したる程で最初の豫想は全然裏切られてゐるが其原因は九月上旬の降雨と相待つて引續き曇天低溫なりし日多かりし爲出穗早き割合に成熟期の遲延を見たる結果たるべく殊に中晩稻に於て其反映大なるものがあつたと言はれてゐるで收穫期に於ては晴天多く

乾燥充分なりし爲乾燥米粒の量目は昨年產米に比し頗る良好で一升に就き二十匁の增重を見てゐると

十八圓ごは取越し苦勞

平支所の觀側

悲況のドン底にもがく石城町地方米價の前途に關し穀檢平支所邊りでは左の如く觀測してゐる「本月初旬から走り出した地方出廻り米は平均相場二十圓と唱へられなほ下押し歩調を見せ生產者の頭痛の種となつてゐたが九日草野村で行つた俵米競賣會の結果によれば平均相場二十三圓五十錢といふ中央市場相場以上の好調子で取引されたことは一面買受商人の自覺によるもので此の調子は商人筋で目先高に見てゐるし產地米の買入れに苦心してゐる傾向が見ゆるのでこれ以上低落するとは見られない從つて將來十八圓の呼び聲は取越苦勞に終るものではないかと思ふが生產者者は一層の警戒を要する」と

あゝ[illegible]

「義士の野外劇」

吉良邸（八幡公園）の討入りから

泉岳寺（常春院）引き上げまで

植田町で實演

あすは師走の十四日、昔を偲ぶ元祿十四年、年は代れども變りなき日本武士道の精華として今に謳はれる有名な赤穗義士の復讐記念日に相當するので東京中央放送局では明十四日午後七時から「義士の夕べ」として渡邊文學博士の講演や市村左柳外六十餘名が高輪泉岳寺で義士傳の野外劇を演ずる事となつたが目下本郡植田町菊田座に開演中である平町東源氏の主宰する元祿快擧義士劇團の一行でも此の記念日を意義あらしむべく植田町に於て花々しき義士傳の野外劇を演ずる事となり非常な前人氣を呼むでゐる、野外劇のコースは當日午前十時一行四十七名の俳優は豫ねて楠屋に擬してある植田驛前そば屋石港庵に集合し手甲、脚絆のいでたちも勇ましく八幡公園の吉良上野の邸に討ち入り、鶴翼の構ひで時こそよけれと待かまいる義士の面々は大石良雄の打つ陣太鼓の合圖によつて修羅の勢ひで討ち込み見事仇敵吉良の首を取りかちどきの聲を揚げ一行は兩國橋に擬した鮫川橋を渡らんとするや服部一郎左右エ門に堰とめられたので舟によつて渡川し泉岳寺に擬した植田町常春院に引き揚げ、見事割服すると云ふ筋で同劇團は此の野外劇を演ずる爲め特に衣裳道具を備ひ一般に觀覽せしむる筈で非常な人氣を呼むでゐる

平の救世軍

漸次發展する

近く會所擴張

救世軍平小隊は小隊開設當時數名の兵士ありしのみ數ふるべき信者もなかつたが漸く十年の星霜を經てあらゆる迫害を排しよく努力した結果晩近著しき發展を示して五十餘名の兵士及百數十名の信者を指揮するに至つたので各種の集合には現在の集會所にては狹隘を感じ事業遂行上の不便尠からざる有様なので小隊長日下少校が此程中校になつた記念事業として建坪百坪位の集合所を新築せんと計畫中であるが現在にては餘りに財界も疲弊し擴張事業の計畫時代でないから躊躇してゐるが財界の好轉するを待ち是非實現せしめんと小隊長以下何れも恐心之れに努めてゐる

留置場脫出を企む十六才の掏り犯

東京で腕を練つて

藤原で捕はる

石城郡高久村大字田口生れ當時湯本町字辰ノ口居住吉田正吉（二六假名）は去る十一日夜午後九時半頃藤崎村藤原劇場で活動を見物中巧みに見物客四名から現金廿四圓を掏り取つたことを探知され十二日午後三時頃湯本町で平署刑事のために逮捕され本署に於いて嚴重取調中の處此奴は昨年暮頃から上京し東京淺草の不良團に身を投じ掏り專門に東京市を荒し廻つた末歸鄕したもので少年に似合ぬ大膽振りを發揮係官を手古摺らしてゐるが十二日午後四時頃留置場を破つて逃走を企て見廻りの係官が發見引捕へたが逃走の虞れあるので目下嚴重監視中である

久ノ濱の晝火事

物置から發火

久の濱大字北町農木田增次方物置から十一日午前十一時五十分發火し同物置一棟を燒失し十二時半鎮火原因は子供の弄火損害五百圓の見込

赤井稻品評會

石城郡赤井村農會主催の水稻品評會授與式は十四日午後一時から同村第二小學校に於て擧行される筈であるが尙當日村當局では自治功勞者の表彰式を擧行する筈であると

暮れ氣分

やきもち喧嘩

平署の粋な裁きで

夫婦元の鞘へ

昨十二日夜九時半頃眼を泣きはらした妙齡の美人が平署に飛び込んで來たので當直の佐藤部長が事情を聽くと此の美人は千葉縣香取郡笠井町生れ高島廣三（三五）の妻ハツ（三六）と稱し去る九日夫と共に**當地方に**行商しながら流れ込み城山のラジウム館に投宿してゐたが十二日の朝卯夜夫の歸りが遲かつた理由を尋ねたところ生意氣な口を言ふなとハツを毆打した事から大喧嘩となり果ては定りの別れ話しとなつたのでハツは自分の衣類だけ返して呉れゝば金は一文もいらない、女中奉公をしても**故鄕まで**は歸ると言ふたが廣三は衣類なんか渡されないと頑張つてゐるので斯くは訴へ出たもので佐藤部長は直ちに夫廣三を呼びよせ懇々說諭し粹な裁きでもと〳〵通り一諸になる事となり二人手を取り合つて宿に歸つた

渡邊消防召集

石城郡渡邊村消防組非常召集は去る八日午前四時發令、同六時十分までに全部小學校庭に集合したが二里餘を離れた山道を短時間に集合し且成績優良であつた爲め植田警察署長より賛辭の讚許があつた

匕首を忍ばせて湯本町を橫行

元營林署の川合を

平署嚴重取調中

湯本町字三函本通り附近を昨十二日夜午後十一時半頃擧動頗る不審な靑年が通行してゐるのを密行中の平署柴崎刑事が發見誰何したところ矢庭に逃走を企てたので大格闘の上逮捕したが懷中には鋭利なる匕首を呑んでゐるところから愈々不審を抱き本署に引致嚴重取調べたところ此奴は當時住所不定、双葉郡久の濱町生れ川合幸太郎（三五）で數年前平營林署に在勤中官金千五百圓を橫領した有名な前科を有してゐるが係官の取調に對しては一切口を緘して何事も語らないが擧動其の他から同町某有力かを襲つて强盜を働らかんとしてゐたものであるらしく嚴重取調中

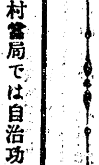
吉田宇吉入院

東北大學病院へ

平町紺屋町菓子商開進堂主人吉田宇吉（三九）は過般某事件により平檢事局の取調を受けたが同人は疾呆性疾患あるものとして宅控へを命ぜられ此の程東北帝國大學附屬病院精神科へ入院して

蓮沼氏上京

本社副社長蓮沼龍輔氏は今十三日午後五時平發にて上京二三日滯京歸平の豫定



◇花柳病豫防法で藝者も女中も檢査を受けなけりやならない事になつたのは大きな頭痛の種だ、ナニもイヤな病氣もちだからでなく、親にも見せないこの品をといふにあるらしいが、ナルホドお座敷で淺い川を踊るとは勝手が違ふからイクラ圖々しくともね◇そこで豫防法の實習だが、一つ組合あたりで講習會でも開いてサツクや殺菌劑の研究でも始めてはどうかネ。俺が研究の技師になつて實演して見せようなんて特志家があるよ、誰だい、ついでに赤ンボの出ない方法もおそわりたいといつてるのわ◇アラ妾たちよりお客のほうを檢査してもらいたいものね純眞な處女を汚すのは、みんな男が惡いのだとわ清奴がとても怒つてました

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

平町田町
高久病院
電話五一三番

[illegible]科　外科　泌尿器科　[illegible]喉科
X光線科
赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一九番

常磐第一ノ大炭礦タル磐城炭礦ノ石炭
石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
値段正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前
阿部石炭商店
電話二二三七番

內科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科
磐城病院
平町田町本通り
（電話一一四番）
入院隨時

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり